

オリンピックの地方間交流への期待

新型コロナのために延期となった東京オリンピック、来年予定通り開催できるかが心配されていますが、多くの関係者は「必ず開催される！」と期待を寄せ準備に余念がありません。

静岡県牧之原市は太平洋に面し、長い海岸線を有し、今回オリンピックの種目に採用されたサーフィンが盛んな地です。

そんな事もあり、サーフィン競技会場の開催地の誘致活動を積極的に行いました。牧之原市長である私が、世界サーフィン連盟のフェルナンド・アギーレ会長に、アメリカのサンディエゴまで行きお願いしましたが、その際に提案したのが、国際サーフィン連盟が希望していた「サーフィンプール開催」のための施設建設でした。

サーフンは、波乗りですから、大きく砕ける波が必要ですが、自然が作り出すシーンですから全く波がない時もあったり、逆に台風などで大波になって危険な時もあります。したがって普通の大会では波待ち時間があり、開催時間を変更することは当たり前ですが、オリンピックで世界に中継される競技はそれができません。そのため例えばカヌー競技のように屋内に急流を作って開催するように、本当は確実に開催できる全天候型の屋内施設が望まれたわけです。そこで私はサーフィン競技会場誘致のために「サーフィンプールを作ろう」と考えました。

サーフィンをやらない私にそんな思い付きができたのはある実業家の存在があったからです。その実業家は牧之原市に本社をおいて、国内はもとよりアジア地域まで含めてある衣料品などのブランド製品を販売していました。彼がある時「私はこの牧之原の静波海岸にサーフィンプールを作りたいんだ。波がなくてもいつでもサーフィンができるからね」と冗談か本気か忘れましたが、言っていたのを思い出しました。彼は10年ほど前にまだ50代半ばでしたが、すべての事業を売却して一線から引退して県外やハワイや海外で悠々自適に暮らしておりました。私は「彼ならやってくれるかもしれない」と所在を探して連絡を取りました。そして私と会う段にはすでに世界のサーフィンプールの状況を調べていました。「面白いから挑戦してみましよう」と計画を進めることになりました。

今そのプールは完成間近です。来年のオリンピックに合わせて、世界中の多くのプロサーファーが、牧之原市の静波海岸にできるこのサーフィンプールを利用することが期待されています。



牧之原市内で年内に完成するサーフィンプール(サーフスタジアムジャパン株式会社 HP)

そんな中で既に2回の強化合宿を牧之原市で行っている中国ナショナルチームに期待が集まっています。

実は会場誘致は千葉県の一ノ宮町に決定してしまいましたが、誘致活動の中からアメリカチームの事前合宿地としてアメリカのホスタウンを目指そうとしておりました。オリンピックで来日する皆さんとの交流促進がホスタウンの目的です。

そんな折、以前から交流していました中国大使館の程永華大使(当時)の奥様の汪婉参事官(当時)とお会いした時でした。オリンピックのホスタウンの話題になった際に参事官から「西原さん！牧之原市が中国のホスタウンになってください！」と提案がありました。「中国がサーフィン？」とイメージはありませんでしたが、提案ですので職員に調査検討をさせました。するとサーフィン種目については海南島を本拠地にしてナショナルチームができて選手強化をしていることがわかりました。

汪婉参事官の手配もあり、国家体育総局水上運動管理中心との事前合宿地の協定が結ばれ、昨年と一昨年は連続して中国ナショナルチームの強化合宿が牧之原市で行われています。一か月近い合宿期間中、地域の子供たちとの交流はもちろん環境美化のための海岸清掃など様々な交流が行われました。残念ながら今年はコロナのために事前合宿は行われませんでした。来年はぜひ出場が叶い、事前合宿が行われますよう期待してお待ちしています。

スポーツにおける地方間交流がこのオリンピックを通じて盛んになることを期待しております。



汪婉参事官と筆者(牧之原市長=当時)

文 西原茂樹